

那 須 岳

概況（平成 18 年 10 月）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

地震及び微動の発生状況

火山性地震の発生回数は 1 日あたり 0 ～ 2 回と少なく、静穏に経過しました（図 1 - ）。火山性微動は観測されませんでした。

噴煙の状況

茶臼岳の噴煙は少ない状態が続いており、噴煙高度は火口縁上おおむね 100m で経過しました。噴煙高度及び噴気温度は 1990 年以降、低いレベルで推移しています（図 1 - ）。

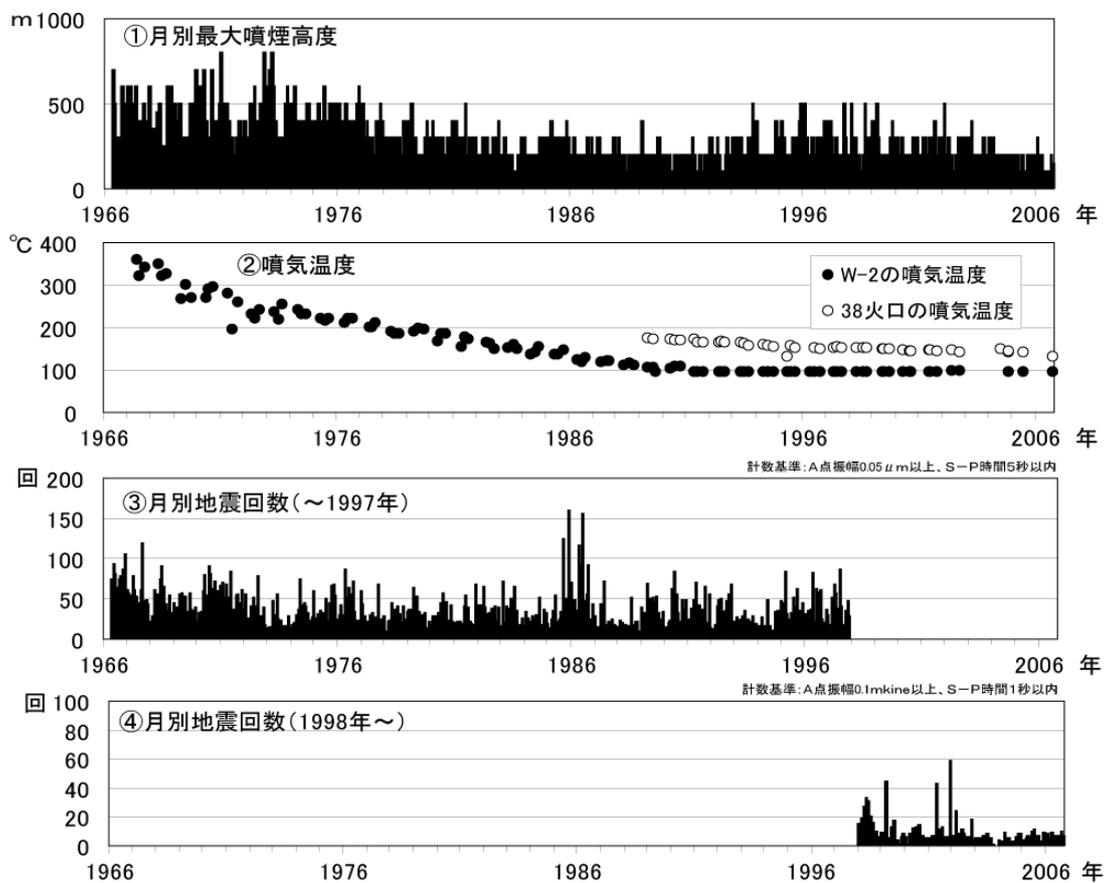


図 1 那須岳 最近の火山活動の推移（1966 年 1 月～2006 年 9 月）

茶臼岳の月別最大噴煙高度：定時観測（09 時・15 時）のうちの最大値

噴気温度（W-2 及び 38 火口はいずれも茶臼岳西側斜面にある温度観測点）

山体付近の地震活動を把握するため、1998 年以降の地震回数は計数基準を変更して表示

この資料は気象庁のほか、東北大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図2 那須岳 茶臼岳付近の状況(2006年10月15日、那須湯本遠望カメラによる)

地殻変動の状況

G P S連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした(図3)。

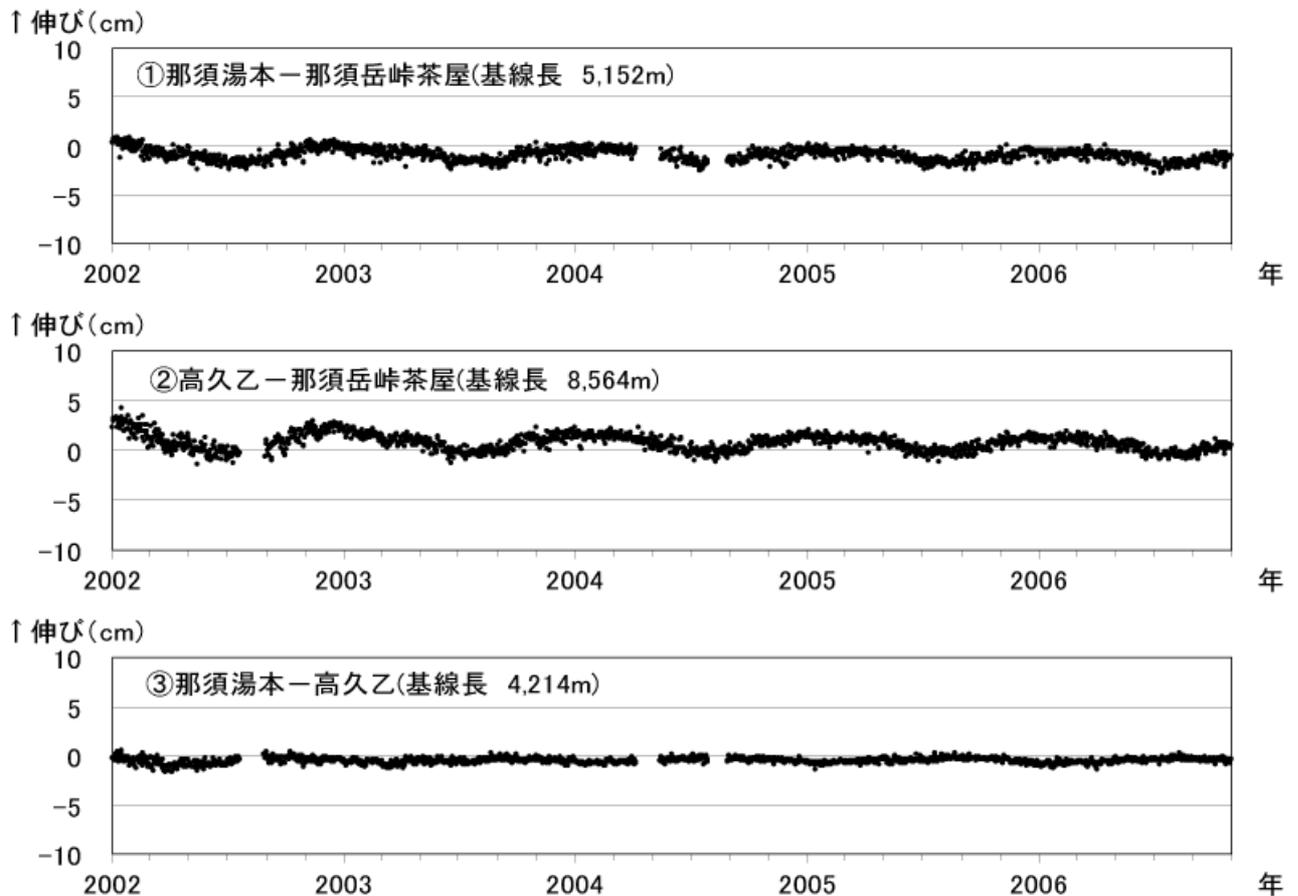


図3 那須岳 G P S連続観測による基線長変化(2002年1月~2006年10月)

基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

(~ は図6のG P S基線 ~ に対応しています)

調査観測の結果

26日に実施した観測では、茶臼岳西側斜面の地表面温度分布¹⁾に特段の変化はみられませんでした(図4、5)。

茶臼岳西側斜面の噴気孔の最高温度は136(図5のA)で、前回の観測(2005年7月14日、141)と比べて大きな変化はありませんでした(図1-)。



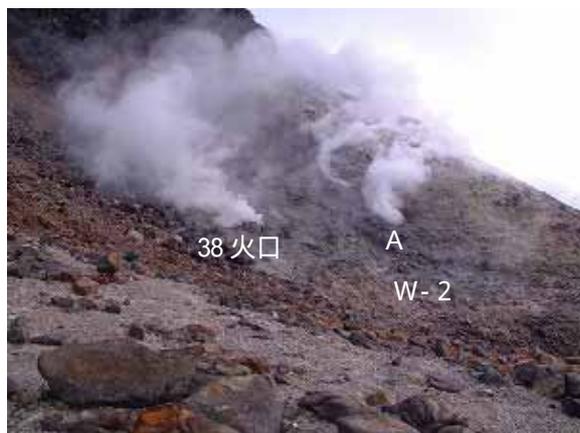
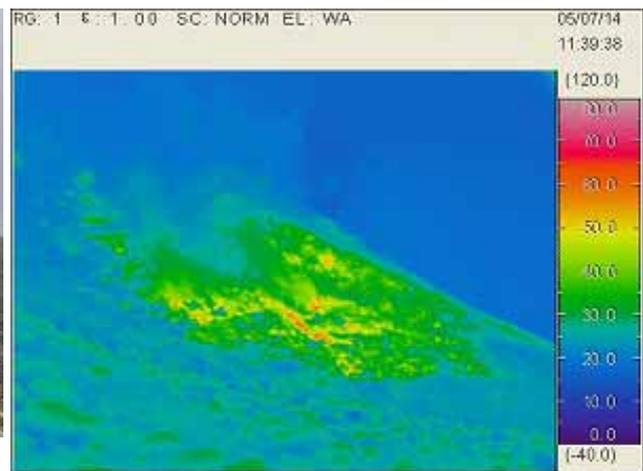
1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

図4 那須岳 表面温度観測範囲

- : 茶臼岳西側斜面の赤外熱映像観測領域
- : 撮影方向



2005年7月14日観測実施



2006年10月26日観測実施

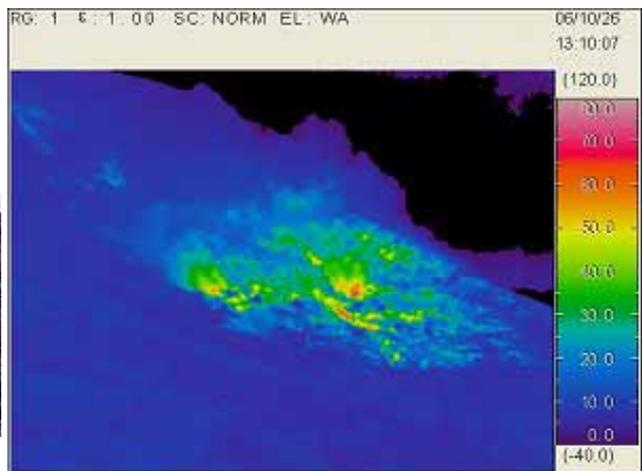


図5 那須岳 茶臼岳西側斜面の噴気の状態と温度分布

観測点情報

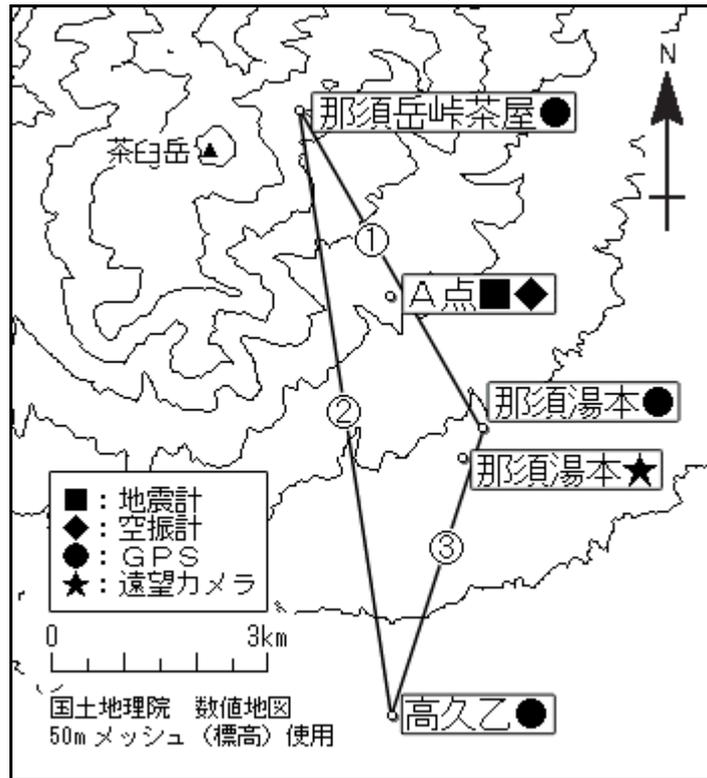


図6 那須岳 気象庁の観測点配置図(小さな白丸は観測点位置を示しています)
GPS基線 ~ は図3の ~ に対応しています。